

【論文 11】

提婆達多 (Devadatta) の研究

森 章司
本澤綱夫

【0】はじめに

[1] 本論文は釈尊に反逆し教団をのっとろうとした、仏教史上の悪人を代表する人物として伝えられてきた提婆達多 (Devadatta) の生涯と事績を考えてみようとするものである。それだけに今までに数多くの論衡があるが⁽¹⁾、必ずしも歴史的、あるいは教団論的視点での研究は多くなかったように思われる。

本論では、今までのこの総合研究「原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究」の方法論に基づき、可能なかぎり網羅的に提婆達多資料を収集したうえで、それらを整理分析しながら、総合的に釈尊教団の中の提婆達多像をできるかぎり明らかにしてみたい。また実は多くの部分を別の論考に譲らなければならないのが残念であるが、これを通して釈尊が指導されていたサンガの実態を知る手がかりを与えてくれることも期待される。なぜなら提婆達多に代表される悪は「破僧伽」であるからである。

- (1) 主なものに、中村元『原始仏教の成立』中村元選集〔決定版〕第14巻(春秋社 1992年11月)第4編・第2章「釈尊を拒む仏教——デーヴァダッタなど」pp.509～571、佐藤密雄『原始仏教教団の研究』第10章「提婆の破僧と第一結集」(山喜房仏書林 昭和38年3月)pp.779～837、B.Mukherjee ; *Die Überlieferung von Devadatta, dem Widersacher des Buddha in den kanonischen Schriften*, München 1966、関稔「初期仏教教団における異端者の問題——デーヴァダッタ伝説の再検討」(『日本仏教学会年報』第39号 昭和48年度)pp.055～070、などがある。

[2] 本稿で取り扱う文献は、今までの方法論にしたがって、次のように大きく2つに分ける。

A文献：原始仏教聖典(パーリの5ニカーヤと漢訳の4阿含および『別訳雑阿含』、ならびにこれらの単訳経、『パーリ律』とそれに相応する漢訳律蔵)

B文献：初期仏教聖典(*Apadāna* や *Jātaka*、『根本説一切有部律』などの一般には原始仏教聖典に分類されているがその後期に成立したと考えられる文献と、経・律の諸注釈書、仏伝経典、アビダルマ等)

ここではこれらの文献に記されている提婆達多の事績に関する記述を「資料」と呼ぶ。資料には必要に応じて番号を付して整理したが、A文献資料は〈 〉で示し、B文献資料は斜体の〈 〉で示した。

そして我々は資料の信頼度を

第1次水準資料：パ・漢の原始仏教聖典(A文献)に共通する資料

第2次水準資料：パーリの原始仏教聖典独自の資料で、漢訳聖典とは共通しない資料

第3次水準資料：漢訳の原始仏教聖典独自の資料で、パーリの原始聖典とは共通しな

い資料

第4次水準資料：原始仏教聖典のアッタカター（注釈書）や、後の時代に成立した「仏伝経典」などの資料、すなわちB文献資料

と考えていることも、従来と同じである。

また資料紹介の順序は、従来の論文あるいは資料集の例にのっとり、経・律の順序とし、そのなかではパーリを先にして漢訳を後にし、経は *Dīgha-Nikāya*（以下 *DN.*と略する）、『長阿含』、*Majjhima-Nikāya* (*MN.*と略する)、『中阿含』、*Saṃyutta-Nikāya* (*SN.*と略する)、『雑阿含』、『別訳雑阿含』、*Āṅguttara-Nikāya* (*AN.*と略する)、『増一阿含』、*Khuddaka-Nikāya* の *Dhammapada*、『法句経』など相応漢訳、*Udāna*、*Suttanipāta* の順、漢訳律は『四分律』『五分律』『十誦律』『僧祇律』の順とした。B文献資料は原則としてパーリ系統のものを先にし、漢訳・サンスクリットのものを後にした。

[3] *Devadatta* の漢訳名には次のようなものがある。

提婆達多⁽¹⁾、提婆達⁽²⁾、提想達哆⁽³⁾、禰婆達兜⁽⁴⁾、地婆達兜⁽⁵⁾、提婆達兜⁽⁶⁾、調達⁽⁷⁾、天授⁽⁸⁾ などであるが、以下の論述部分では提婆達多を用いることにする。ただし引用文中では原則としてその文献に用いられている語を使った。

- (1) 『起世経』(大正01 p.364中)、『起世因本经』(大正01 p.419中)、『雑阿含』447(大正02 p.115中)、『別訳雑阿含』003(大正02 p.374中)、『四分律』「破僧健度」(大正22 p.909中)、『僧祇律』「雜誦跋渠法」(大正22 p.442下)、『根本有部律』「破僧事」(大正24 p.149中)、『仏本行集经』(大正03 p.701下)、『衆許摩訶帝经』(大正03 p.937下)
- (2) 『四分律』「僧残010」(大正22 p.591上)ほか。
- (3) 『中阿含』112「阿奴波经」(大正01 p.600下)
- (4) 『阿耨風经』(大正01 p.854上)
- (5) 『興起行经』(大正04 p.164下)
- (6) 『増一阿含』011-010(大正02 p.567中)、『仏所行讚』(大正04 p.041中)
- (7) 『五分律』「破僧法」(大正22 p.164上)、『十誦律』「調達事」(大正23 p.257上)、『太子瑞应本起经』(大正03 p.474中)、『仏本行经』(大正04 p.083中)、『僧伽羅刹所集经』(大正04 p.135下)、『十二遊经』(大正04 p.146下)
- (8) 『根本有部律』「破僧事」(大正24 p.170中)